



研修を活かした授業実践例

【中学校編】

教師および生徒の原文を生かして掲載しておりますので、
一部表現のばらつきがありますがご了承ください。



みんなで一緒にネパールを知ろう

愛媛県今治市立菊間中学校 担当教科：国語・特別支援教育 井出 博美

◆実践教科：選択国語・自立活動 ◆時間数：9時間 ◆対象学年：中学1・2・3年 ◆対象人数：188名

カリキュラム

◆実践の目的

現在、自閉症・情緒障害特別支援学級及び、通常の学級の2年生の国語、3年生の選択国語を担当している。ネパールという国への知識は、特別支援学級の生徒も通常の学級の生徒もほとんど違いはなく、ほとんど知らなかった。障害の有無にかかわらず、これからの生徒には、コミュニケーション能力が必要である。それぞれの生徒の実態・興味・関心に合わせて、生徒同士のコミュニケーションの場を設けながら、授業を進めた。

- ①ネパールについて知るにより、先入観をもたずに異文化に関心を持ち、お互いを尊重する態度を育てる。
- ②自国や自分自身を見つめさせ、将来の国際協力への意欲をもたせる。

ココがすばらしい!

- ・ネパールから生徒に絵葉書を送るなど綿密な事前準備をし、2学期の授業の導入とした
- ・ただクイズをするのではなく、ネパールの特徴を生かして世界一の高さを誇るサガルマータ登頂を目標にクイズに答えるなど、生徒が意欲的に参加できるようになっている

授業の構成（特別支援学級）

| 実践教科 | 生活単元学習・道徳 | 時間数 | 4時間 | |
|------|---------------------------------|--|-----|--|
| 対象学年 | 中学2年女子・中学3年男子 | 対象人数 | 2名 | |
| 時限 | テーマ・ねらい | 方法・内容 | | 使用教材 |
| 1 | 絵はがきは どこから? | 視覚的な情報を適当な言葉にする能力を高めることにより日常生活におけるコミュニケーションの能力を高める (1)写真を見て関心をもつ (2)気になることを見つける (3)発表する | | パワーポイント 写真 付箋 世界地図 |
| 2 | ナマステ ネパール1 ネパールについて 知る | (1)ネパールの位置を知る (2)人口面積を知り、日本や愛媛県と比べる | | ワークシート 世界地図 |
| 3 | ナマステ ネパール2 ネパールについて 知る | (1)自分に来た絵はがきについて発表する (2)民族衣装を着る (3)あいさつ自己紹介の仕方について知る | | 絵はがき 民族衣装(クルタ・トピー)、 チュラ飾り ネパールの音楽 |
| 4 | 自分を知る | (1)写真から見つけたことを話し合う (2)ビデオを見る (3)自分自身の生き方について考える | | ナマステ! ダンブスの子供たち ワークシート |

1 限目 絵はがきはどこから？

視覚的な情報を言葉にする能力を高めることにより、日常生活におけるコミュニケーション能力を高めることを目的としてフォトランゲージを実施した。途中、教師の言葉がけを少なくして、写真に集中できるようにした。生徒のつぶやきは受容し、質問に答えた。気になることを短い言葉で付箋に書いて発表し、付箋に書いた言葉について話し合った。

生徒の反応



天気を変だ、少し前まで晴れていたのに



卓球のネットがレンガだ…制服がある。



剣道みたいだ



建物の模様がすごい



手で食べている。



集会場みたい

〈所感〉

ネパールから送った絵はがきが2人に届いており、どこから送られたのか、関心をもっていたため、写真を熱心に見ることができ、発語も多かった。最初に私がネパール語でしたあいさつと名前の言い方を覚えており、言い方を教える前に「メロ・ナム（名前）」とすることができ、意欲的に取り組もうとする姿勢が見られた。

ネパールやその他の国についての知識が多いとは言えない生徒達だが、その分他国への勝手なマイナスイメージや先入観がないことがわかった。

写真の細部に注意を向ける言葉がけをしなかったが、生徒のつぶやきの声をとらえての話や、生徒の話し合いから私の想像以上に多くの情報を受け取っていることがわかった。



授業風景

2限目 ナマステ ネパール1 ネパールについて知る

世界地図を使い、ネパールの位置を確認し、人口、面積などについて調べ、日本、愛媛県と比較した。

生徒の反応

・世界遺産がたくさんあっていい国だとわかりました。私も世界のいろんなものを見てみたいです。

〈所感〉

愛媛県と比べることにより、イメージが容易になった。また、統計の数字に興味をもち、計算にも意欲的に取り組むことができた。

3限目 ナマステ ネパール2 ネパールについて知る

自分の所に来た絵はがきを友達に見せ、説明し合った。ネパール場所などを確認した。男子生徒が興味をもった本で調べ学習をしている間に、女子生徒にクルタを着せて、授業を進めた。



「ナマステ」と書いています



僕のと違うなあ



メロ ナム…



お互いにあいさつ

生徒の反応

- ・絵はがきはネパールから来ました。先生が『ナマステ』と書いておられました。愛媛県石鎚山の4倍より高い山の切手です。
- ・帽子は好きではありませんが、かぶりました。

〈所感〉

2限目にネパールを愛媛県と比較したことを覚えており、切手の山を石鎚山と比較した。身近な物と比較することが定着した。民族衣装体験では、着替えて出てきた時に、前回覚えた「ナマステ」という言葉と手を体の前で合わせる動作が自然に出た。またそれを受ける男子生徒も、目を合わせて自然に同じポーズで答えた。言語と言語以外のコミュニケーションの場を見ることができ、生徒達の経験を知識にしていく能力を再確認することができた。

4限目 自分を知る

これまでの学習を振り返り、価値を誘導することは言わず、生徒自身が感じたままを発表させた。ネパールと自分たちの生活は、本質的なところは同じであることに気づかせ、人間として大切なことは何かを考えさせることを目標とした。

生徒の反応

- ・水道も電気もない村で子供たちは、学校に行く前と放課後に働いて、「つらそうだなあ」と思いました。村に病院がありません。でも、子供たちは元気でした。それに、ほとんどの人が「医者になりたい」、「人を助けたい」と言っていました。
- ・村にお医者さんがいないのは不安ですが、いないからやりたい、他の人を助けたいと言っていました。みんな楽しそうで笑顔でした。

〈所感〉

生徒は、ビデオの中で母親が夜集まって勉強しているところに興味を示した。なぜ大人になってから夜集まって勉強するのかに疑問をもち、日本では普通に学校に通えることの幸せに気づくことができた。物質的に満たされていないなくても、人のために働くことを考えている子供たちの存在を知ることが大きな刺激となった。

授業の構成（通常の学級）

| 実践教科 | 選択国語 | 時間数 | 4.5時間 |
|------|------------------------|--|--|
| 対象学年 | 中学3年 | 対象人数 | 20名 |
| 時限 | テーマ・ねらい | 方法・内容 | 使用教材 |
| 1 | ネパールを知る-1 (1.5時間) | (1)日ごとの写真を見て気になることを付箋に書く (2)気になることを発表し付箋を貼る (3)付箋を項目ごとにグループ分けし、タイトルを付け話し合う *この時間のみ数学選択の20名も参加 | パワーポイント 写真 ワークシート 鳥の子用紙（模造紙） 付箋 チュラ |
| 2 | ネパールを知る-2 (1.5時間) | (1)ゲーム（伝達者の言葉を聞き、絵を描く） (2)一番気になるところを発表する (3)感想を書く | 神の絵 ワークシート 鳥の子用紙（模造紙） 付箋 |
| 3 | 日本とネパール (予定)(1.5時間) | (1)感想をもとに問題点を話し合う (2)自分の意見をまとめる | 民族衣装(クルタ・トピー) 生徒からの手紙 |

1 限目 | ネパールを知る1 中学3年（選択国語）

研修中に撮った写真を次々に見せ、生徒が質問した時にだけ説明を加えた。その後ブレインストーミングにより意見をまとめた。

〈所感〉

生徒は、ネパールの文化遺産や建物、民族衣装、食べ物、牛や山羊などの動物、学校などに興味を示した。写真を見て、どの生徒も自分なりの感想をもつことができた。気候の違い、生活に根付いた宗教、英語力の高さ、都市と周辺の格差、同じ学校の生徒間での貧富の差などを指摘した生徒がおり、写真に込められた情報を読み解こうという意欲が感じられ、相互の自由な発言の中で、自分の考えとの違いに気づき、発想を広げることができた。生活の不便さ、習慣の違いについて柔軟に受け入れる言動が見られた。学習を進めていくなかで、興味や関心が高まった発言や質問が聞かれた。



付箋をはる



確認する



グループ分け

2 限目 | ネパールを知る2 中学3年（選択国語）

導入として「神様を描くゲーム」を行った。まず伝達者を募り、絵を与え、伝達者は言葉で伝えた。他の生徒は、伝達者の言葉に従って絵を描いた。質問はよいが、ジャスチャーはダメというルールに従い、言葉で伝達させた。伝達者を2人にする事で、協力して言葉を工夫し伝達しようとする姿が見られた。遊び感覚の中で、日本の仏とヒンズー教の神の違いを知ると同時に、立場の違う人の感情に気づいた。前回のまとめを見て気になるところについてまとめ、個々の生徒の読みとり方の違いに気づいた。

生徒の反応

- ・ネパールという国は見た感じ大変そうな国であった。しかし、日本と文化は違えど、人々はいい感じに生活しているのでいいと思う。日本と比べれば、学校も小さいし道路も整備されていないが、それほど困っていないようだ。僕なら困るが、日本が求めすぎているんだよね。
- ・私が感じた印象は、田舎的な所と都会的なところがありました。学校とか食事の風景は日本と違うところがあったけれど、なんか行ってみたい楽しそうな国でした。
- ・ネパールはとても宗教が盛んそうでした。建物などが多い国だということが写真とみんなの話し合いでわかった。神様の絵も独特で日本とは全然違うのかなと思った。他には食べ物を手で食べる。スプーンとかありそうだったけど、意外だった。もっと村みたいなのところだと思っていたから驚いた。子どもも幼稚園なのに英語を使っていたのも驚きました。ネパールの印象が変わりました。授業は楽しかったと思います。
- ・ネパールは独特の文化や雰囲気のある国です。ティカや祭りなど変わっているものが多く楽しいですが、格差が激しいです。学校の中でも子どもの服装や勉強道具、机、椅子などにかなり差があります。これらの格差を少なくしていかなければならない国です。



伝達者の2人



描画中の生徒

授業の構成（全校朝会）

| | | | |
|------|----------|------|-------|
| 実践教科 | 創意（全校朝会） | 時間数 | 0.5時間 |
| 対象学年 | 中学1・2・3年 | 対象人数 | 188名 |

1 限目（全校生徒）

ネパールの世界遺産、人、生活、食事、訪問した学校、ネパールで働く日本人についての写真を見ながら、途中6問の「サガルマータ（エベレスト）に登ろうクイズ」（4択クイズ）を入れながら話を進めた。

1問正解ごとに菊間中から248,3mの高仙山（校歌にも詠まれた菊間町の山）、1982mの石鎚山、3376mの富士山、4808mのモンブラン、5895mのキリマンジャロ、8848mのサガルマータに登っていくことをイメージさせた。

山の名前と高さの表示



サガルマータへ登ろうクイズ

Q1

あの店で売られていたのは何でしょう。



- ①ただの石
- ②お守り
- ③アンモナイト
- ④火打ち石

③ 大昔は海だった



Q2

私はなぜマスクをしているのでしょうか



- ①新型インフルエンザ対策
- ②かぜをひいた
- ③口がはれていた
- ④排気ガス対策

④ 地元の人は黒いマスク



Q3

ネパールでは、「はい」と言う時どのようにするでしょう。



- ①左右に傾ける
- ②日本とおなじ
- ③耳をさわる
- ④横をむく

① 首を左右に傾ける



Q4

牛が交差点に座ってしまったらどうするでしょう。



- ①おしりをたたいて移動させる
- ②頭をたたいて移動させる
- ③大声を出す
- ④動くまで待つ

④ 動くまで待つ



Q5

これは何の肉でしょう



- ①鶏
- ②ヤギ
- ③牛
- ④ブタ

② ヤギ



Q6

小学校に九九がはられていました。何の段まであったでしょう。



- ①7の段
- ②9の段
- ③12の段
- ④15の段

③ 12の段



生徒の反応

- ・ネパールにはたくさん優しくそうな人がいていい国だと思いました。機会があれば、いろんな国に行って、いろんなことが知りたいです。
- ・先生が着ていた服はテレビでも見たことがあったので、生で見られてよかったです。
- ・九九の12の段が小学校にあり、びっくりしました。
- ・私も将来海外で活躍する人達の一員となり、少しでも協力できたらいいなと思いました。
- ・今日話を聞いて、ネパールと日本とのたくさんの違いを見つけました。服装も違えば、食べる物も生活も全ての物が大きく違いました。でも、ネパールの方は写真で見た感じがすごく明るそうでした。習字も喜んでくれて、私もうれしかったです。（お土産に持って行った書写作品をくれた生徒）
- ・ネパールでは手でご飯を食べたり、日本ではあまり考えられないことが多かったけれど、そういう文化があることもわかってよかったですと思います。
- ・ネパールのお話を聞いて日本とは全然違う生活でびっくりしました。私が書いた習字が外国に渡るなんて思ってもいなかったの、びっくりしました。私も行ってみたいです。（お土産に持って行った書写作品をくれた生徒）
- ・ネパールという国のことを今まであまり知らなかったし、実際考えたこともありませんでしたが、世界にはいろいろな国があり、一つ一つにいいところがあると思いました。ネパールもそうですが、将来はいろいろな国に行ってみみたいです。

〈所感〉

ネパールに対する理解度が様々な生徒たちを対象に行った。1、2年生と選択国語と数学以外の3年生にとっては初めて聞く情報となった。研修の伝達としての目的が大きかったが、生徒たちのことを知るよい機会にもなった。4択クイズの5問目で私が答を先に出してしまったが、生徒はそのまま自分の答と思っている場所に留まる場面が見られた。これまでの学習で生徒達の他への理解、違いを認め受容する心が育っていることがわかった。

将来この生徒が、海外でその国のために活動する人や、日本の国内にいて海外で活動する人を支える人、外国とのかかわりのない仕事についていても外国に向かって意識が開いている人になってくれればと思う。

全体を通して成果と課題

特別支援学級と通常の学級の生徒を対象としたため、時数が少なくなり、問題点やその解決方法を考える時間があまりとれず、やや深まりに欠けた。しかし、特別支援学級の生徒へ通常の学級の生徒の授業での発言を伝えることにより、これまで関心をもたなかったことへの意識の広がりが見られた。

資料を示す時の私の言葉や提示の仕方が生徒に大きな影響を与えると考え、生徒自身が資料から問題点を見つけることをねらい、説明を少なくすることを心がけた。ネパールは多方面での整備が必要であり、援助を必要としている国であることは事実だが、私の経験した人との出会い、楽しかった研修の様子を感じ取ってくれた生徒が多かった。また問題点を見つけても、それに対する受容的な意見があったことで実践の目的は達成できたと言える。また、授業を通して、通常の授業では見られなかった生徒達の温かい人間性の一部を知ることができたことが、私にとっての大きな成果だった。

新型インフルエンザのための学校閉鎖があり、2学期中に予定の授業を終えることができなかったのが残念であった。

研修で様々な体験をさせていただき、授業の準備をしたが、いざ授業を行ってみると私自身の勉強不足の点が毎回見つかった。予定の授業に向けて更に準備をすると同時に、これからも自分自身の自主的な研修を更に進めていきたい。

参考資料

【書籍】

- ・地球の歩き方編集室編(2009)「地球の歩き方 ネパール2009～2010年度版」ダイヤモンド社
- ・野津治仁著(2002)「旅の指さし会話帳 2 5 ネパール」情報センター出版局

【映像】

- ・ソーケン通商「中学校道徳ビデオシリーズ」『じぶん、新発見』ナマステ! ダンプスの子供たち」

【ホームページ】

- ・国際協力機構 JICA <http://www.jica.go.jp/>
- ・外務省、ネパール連邦民主共和国 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/mokuteki/shochugaku.html>
- ・ウィキペディア <http://ja.wikipedia.org>
- ・Google マップ http://maps.google.co.jp/maps?hl=ja&utm_source=ja-hp
- ・JICA筑波、事業の紹介：教員、学生、NGO、その他の皆様へ 『国際理解教育（開発教育）って何?』 <http://www.jica.go.jp/tsukuba/enterprise/kaihatu/jissen01.html>